

## 地域連携推進会議 議事録

2026年2月25日(水)

15時20分～15時50分

参加者：枡川、角本、高橋、亀井、垣本

リブウェル聖恵で開催された施設説明会および地域連携推進会議における、施設側（主に施設長）と参加者（地域関係者、家族、行政担当者）との対話録をまとめたものです。主な内容は以下の通り要約されます。

### 1. 地域との連携と相互理解

- ・地域貢献への意欲：参加者から「福祉の町に住んでいながら理解が十分でなかった」「何が協力できるか自問自答した」といった意見が出され、講演会への参加などを通じて積極的に協力したいという姿勢が示されました。
- ・会議の意義：コロナ禍で開催できていなかった対面での説明会に対し、行政担当者からは「地域の中での施設の役割を理解してもらうため、こうした取り組みを継続してほしい」との要望がありました。

### 2. 施設運営の現状と課題

- ・職員不足と高齢化：職員の年齢層が45～50歳前後に偏っており、若手不足を補うためにインドネシアからの技能実習生を受け入れている現状が語られました。技能実習生は非常に戦力になっていますが、3年の期限で帰国してしまうことが課題となっています。
- ・利用者の高齢化と重度化：利用者の高齢化に伴い、車椅子の利用が増え、部屋の動線確保が難しくなっています。また、親亡き後の将来に対するご家族の強い不安も共有されました。
- ・財務・制度面の厳しさ：報酬単価の仕組みや、国が進める「施設からグループホームへ」という流れの中で、特に地方（竹原市など）では社会資源の少なさから施設が担う役割が依然として大きいことが強調されました。

### 3. ケアの質と専門性

- ・リハビリテーションの充実：外部から理学療法士（PT）を招聘し、週に数回リハビリを実施しています。これにより、ベッドへの移乗や車椅子のセッティングに専門的なアドバイスが得られ、利用者の動きに大きな変化が出ています。
- ・プライバシーの配慮：入職時に秘密保持契約を締結し、個室や間仕切りのある多床室でのプライバシー確保に努めていることが説明されました。

#### 4. 権利擁護と安全管理

- 虐待防止への取り組み：過去に虐待が疑われた事案において、行政と相談の上、当該職員を直接処遇から外すなどの対応を行った事例が紹介されました。「利用者を中心に考えられる職員」の育成と、チームワークの重要性が語られています。
- 交通安全上の懸念：施設の前の道路がカーブになっており、駐車場への横断が非常に危険であるという具体的な安全上の課題が指摘されました。

#### 5. 家族・地域への感謝

- ご家族からは「現状を詳しく聞き、家族としてできることがあれば協力したい」という声が寄せられ、最後は今後の継続的な連携を確認して締めくくられました。
- この対話録は、施設が抱える切実な課題をオープンにし、地域や家族と共に解決策を探ろうとする透明性の高い運営姿勢を映し出しています。